

寄せられた質問と回答

項番	質問	回答
1	<p>学認に閉じていると、外国人研究者との共同研究に問題が起きます。外人の受入れ大学でその大学のIDの発行をするにはかなりの抵抗があり、国際協調のために独自アカウントに固執せざるを得ません。外国の多くにも学認のようなシステムがあるので、国際ローミングが可能になればよいのですが、それも短期間では無理でしょう。コメント下さい。</p>	<p>大きなコミュニティではeduGainのような枠組みを利用して、何とか大学IdPを受け入れようとしています。共同研究一般をサポートしようとする、そのコミュニティのサポートに対して、コスト的な問題から必ずしも前向きにならないだろうことは承知していますし、想像できます（例えば特殊な共同研究プロジェクトや科研費のプロジェクトのサポートは大学IdPは躊躇するかもしれません）。サポートのハードルを下げるためには、本人確認や認証レベル、また連携プロトコルの運用レベルについて共通の言葉で合意できるような土俵を用意することが必要だと考えます。我々は、IdPとコミュニティそれぞれについて「土俵に乗って、合意のためのコストを下げ、研究サポートのコストを最適化しませんか」と呼びかけますが、小さい・大きい成功事例を早期に提供する責任も同時に感じています。機運を盛り上げるのにぜひご協力ください</p>
2	<p>当施設は多数の民間企業の研究者も利用します。認証基盤の統一のためには、学術機関だけでなく民間企業も容易に利用可能なID・トラストプラットフォームの構築が望まれます。</p>	<p>まったくご指摘の通りだと思います。民間企業が参画する研究プロジェクトのサポートには、アイデンティティ提供のサポートをはじめ、やることが多くあると考えています。また、研究に限らずより産業界のセクター一般との交流も必要だと思います。これらに目を配ってより広い範囲に適用可能なプラットフォーム構築をやっていきたいと思います</p>
3	<p>IdP で氏名を提供するには、個人情報保護法の観点から個別に承諾を得る必要があると考え、ハードルが高いように思います。</p>	<p>おっしゃるように、法令へのコンプライアンスはプロジェクト遂行の前提です。我々が現在ベースにしているShibbolethでは、同意取得ができるようになってきました。これら技術的なサポートを含め、個々に取得するのか、研究プロジェクトとの契約で取得する形にするのかなどの問題解決の方法を考え、気を付けて制度を作っていこうと思います。</p>
4	<p>認証基盤の統一にはGDPRへの配慮もあり、先行するデジタルグリーン証明書フレームワークやCommon Pathなども参考になると感じます。 https://qualias.net/privacy-and-security-in-the-digital-green-certificate-framework/ Privacy by Design Labコミュニティでは、プライバシーの観点から事業と市民の関係性をとらえ、認証基盤も含めデータサービスを持続的に提供する制度設計を検討しています。 毎週木曜日12:00～13:00 https://www.facebook.com/groups/privacybydesignlab</p>	<p>情報どうもありがとうございました。いろいろ勉強します。またいろいろなグループの方と交流を深めたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。</p>